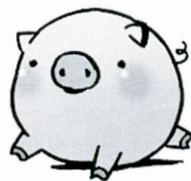


各市水泳協会のおゆみ

- 前橋市水泳協会
- 高崎水泳協会
- 桐生水泳協会
- 伊勢崎市水泳協会
- 太田市水泳協会
- 沼田利根水泳協会
- 館林水泳協会
- 渋川水泳協会
- 藤岡市水泳協会
- 富岡市水泳協会
- 安中市水泳協会

前橋市水泳協会

創立 昭和 25 年 7 月 22 日
住所 前橋市大手町 2 - 2 - 10



SWIM TEAM
まえばし

役員

会長 滋野 文夫
副会長 喜多 正義 設楽 光弘 木村 雅治
理事長 今井正太郎
県水連理事 滋野 文夫 今井正太郎
県水連評議員 宮田 修二 金子 恵一 柴田 安秀

歴代会長

年度	氏名
昭和 25 年度～昭和 28 年度	河野 孝
昭和 29 年度～昭和 32 年度	長張知市郎
昭和 33 年度～昭和 36 年度	山田万喜太
昭和 37 年度～昭和 60 年度	浅香 昇

年度	氏名
昭和 61 年度～昭和 62 年度	山本 要
昭和 63 年度～平成 13 年度	杉田 智
平成 14 年度～現在	滋野 文夫

沿革

1950 年 7 月 前橋市水泳協会設立

昭和 25 年 7 月 22 日、前橋市役所会議室において、河野孝会長以下 10 数名の参加者のもと前橋市水泳協会の発会式が行われた。

同年の夏季期間中、前橋市水泳協会主催の水泳教室を桃井小学校、中川小学校、敷島小学校、群馬大学附属小学校の各プールを借用して、小中学校の子供たちを対象に開催し、水泳選手の育成を図った。

しかし、ご迷惑を考慮しプールを交代して借りたため、練習会場は転々と変わる有様であった。市民や水泳を志す選手が、気兼ねなく思う存分泳げるプールが強く望まれていた。

同年、群馬県中学校体育連盟が発足し、それにともない前橋市水泳予選会が市内のプールで初めて開催された。

また、高校関係では前橋市内で水泳部があったのは前橋高校、前橋商業高校、前橋女子高で、前橋工業高校水泳部の発足はその後結成された。

1950 年 8 月

記念すべき第 1 回前橋市民水泳大会の開催

昭和 25 年 8 月、記念すべき第 1 回市民水上競技大会が、中川小学校で開催された。その後、年ごとに会場を変更し、市民水上競技大会として開催した。

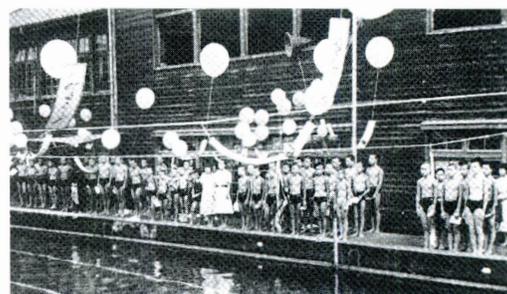
現在では、前橋大渡温水プールで 8 月の第 1 週の日曜日と決めて、前橋市民スポーツ祭として、小学生から一般市民まで年々より多くの市民が参加するイベントへと成長した。

本年度、第 66 回を数え、参加者も延べ 1000 人を超える。

1961 年 6 月 前橋市市民プールオープン

昭和 36 年、前橋市市民プールの完成にともない、50 m のプールで初めて市民水泳大会を開催することができた。同年 5 月 3 日から、小中学生を集め水泳の練習会を始めた。

また、44 総体（昭和 44 年群馬インターハイ）



市民水上競技大会（国民皆泳大会）
昭和 29 年 8 月 20 日 中川小学校プール



昭和 36 年 6 月竣工した前橋市民プールの一部
平常時の利用状況

の反省のもと、練習会の組織を見直し、前橋市水泳協会として、新たに前橋スイミングクラブを組織した。

更に、シーズンオフにおいても泳ぐトレーニングを中心にと、中学生、高校生を対象に新潟六日町温水プールで、土、日練習を実施した。

1973年1月 前橋室内温水プール完成

昭和48年1月、前橋室内温水プール（25m）が完成し、週5日間泳力別のA、B、Cのクラス別に毎夜練習会を行った。

夏季シーズンは、特別に小学校のプールを借用し、夜遅くまで練習会を行った。

インターハイ、国民体育大会に出場できる選手を輩出するまでになった。

その後、前橋市水泳協会の指導のもと、前橋市民を対象にした水泳教室を開催する。

現在では、3か所の温水プールを使用している。

2000年6月 前橋市水泳協会 50周年記念

前橋市水泳協会50周年を記念して協会員の力を結集し、A5版31ページ「ビギナーからベテランまでのスイマーに捧げるLET'S SWIMMING」を10000部作成し、市内小中学校、関連施設等に配布した。



都市対抗成績

5都市対抗水泳競技大会

回	年度	順位
1	昭和26年	4位
2	27	4位
3	28	4位
4	29	4位
5	30	3位
6	31	2位
7	32	2位
8	33	4位
9	34	3位
10	35	6位
11	36	1位
12	37	2位
13	38	1位
14	39	1位

「群馬県都市対抗水泳競技大会」に名称変更

回	年度	順位
15	昭和40年	台風により中止
16	41	1位
17	42	1位
18	43	1位
19	44	1位

回	年度	順位
20	昭和45年	1位
21	46	1位
22	47	1位
23	48	1位
24	49	2位
25	50	1位
26	51	2位
27	52	1位
28	53	1位
29	54	1位
30	55	1位
31	56	1位
32	57	1位
33	58	1位
34	59	1位
35	60	1位
36	61	1位
37	62	1位
38	63	1位
39	平成元年	2位
40	2	1位
41	3	1位
42	4	1位

回	年度	順位
43	平成5年	2位
44	6	1位
45	7	1位
46	8	1位
47	9	1位
48	10	1位
49	11	1位
50	12	1位
51	13	3位
52	14	1位
53	15	2位
54	16	3位
55	17	1位
56	18	1位
57	19	1位
58	20	2位
59	21	2位
60	22	1位
61	23	1位
62	24	2位
63	25	2位
64	26	1位
65	27	1位

競泳選手の活躍

競泳選手の活躍について

昭和 27 年、第 7 回栃木国体において、前橋市初の国体選手として庭山選手（前商 3 年）が、本県代表選手として背泳ぎに参加した。

昭和 58 年、第 38 回あかぎ国体において、滋野選手が 50 m 自由形で優勝。他

近年受賞実績

前橋市体育協会からの受賞（競泳、水球、飛び込みを含む）

年度	優秀選手（人数）			体育功労賞	優秀指導者
	小学生	中学生	高校、一般		
平成 17 年	6	19	23	諏訪部 晃	柴田 安秀
18 年	10	17	19	峰岸芙美子	
19 年	20	21	28		
20 年	13	18	26		
21 年	15	16	20	柳瀬 保孝	
22 年	17	15	18		
23 年	12	24	3		
24 年	20	19	7		
25 年	12	11	17	設楽 光弘	
26 年	14	18	18	松田 叔子	
27 年	15	9	5	今井正太郎	



昭和 55・58・59 年 国体水泳競技
30 歳以上 50 m 自由形優勝

マスターズの活躍

マスターズ日本新記録・世界新記録（会員により樹立したリレー、メドレーリレー抜粋）

年. 月	長/短	区分、距離、種目	泳順	記録	NR、WR
2008 年 11 月	短水路	160 歳区分 4X25M リレー	今井、滋野、久保田、金子	45 秒 92	日本新
2009 年 7 月	短水路	160 歳区分 4X25M リレー	久保田、今井、滋野、金子	45 秒 05	日本新
2010 年 10 月	長水路	160 歳区分 4X100M リレー	久保田、今井、滋野、金子	3 分 59 秒 87	世界新
2011 年 11 月	短水路	200 歳区分 4X100M リレー	今井、滋野、吉田（努）、金子	4 分 04 秒 04	日本新
2011 年 11 月	長水路	200 歳区分 4X100M リレー	今井、滋野、吉田（努）、金子	4 分 08 秒 99	世界新
2012 年 5 月	短水路	200 歳区分 4X100M メドレーリレー	今井、久保田、金井、滋野	4 分 31 秒 08	日本新
2012 年 6 月	短水路	200 歳区分 4X100M リレー	今井、滋野、飯塚、金子	3 分 59 秒 95	日本新
2012 年 11 月	長水路	200 歳区分 4X100M リレー	今井、飯塚、滋野、金子	4 分 07 秒 60	日本新
2012 年 11 月	短水路	200 歳区分 4X200M リレー	今井、岩崎、滋野、金子	9 分 18 秒 20	日本新
2012 年 11 月	短水路	200 歳区分 4X100M リレー	今井、滋野、飯塚、金子	3 分 59 秒 16	日本新
2012 年 11 月	短水路	200 歳区分 4X100M メドレーリレー	金子、飯塚、今井、滋野	4 分 33 秒 99	日本新
2013 年 4 月	短水路	200 歳区分 4X200M リレー	今井、滋野、金子、吉田（徹）	9 分 13 秒 23	日本新
2013 年 11 月	短水路	200 歳区分 4X200M リレー	今井、滋野、金子、吉田（徹）	9 分 07 秒 12	日本新
2013 年 11 月	短水路	200 歳区分 4X100M リレー	今井、飯塚、滋野、金子	3 分 58 秒 10	日本新



マスターズ

飛込の活躍

飛込部門が正式に仲間入りしたのは、おそらく昭和 58 年に群馬県で開催された「あかぎ国体」の頃ではないかと思えます。「あかぎ国体」開催後、30 年以上の年月が経ちその間、飛込部門の活動をしてきましたが、競泳・水球部門のご協力あつての飛込部門だと感じております。

飛込部門の活動場所（拠点）でもある前橋市民プール（岩神町）移転による取り壊しが昭和 63 年秋に行われ、移転先（上細井町）である建設予定の前橋市民プールには飛込プール建設の予定は無く取り壊しから約 7 年近く、近隣のプールをお借りし遠征練習した記憶がございます。その後、群馬県立敷島公園水泳場に新たに飛込プールが完成し、これを機に前橋市水泳協会主催の飛込教室や講習会等を開催して選手育成を図り、全国でも活躍できる選手を輩出しております。

今後は、活動を今以上にするためにも各方面からのご協力を頂き前橋水泳協会発展のためにも頑張っていきたいと思えます。

水球の活躍

前橋市水泳協会の本年度の活動としては、前橋市水泳協会主催による水球教室にて多くの参加者を募り、水球のジュニア選手の育成に尽力する活動を行った。この水球教室は、現役の群馬ジュニアの選手と県内小学生との交流を通して、水球の普及活動に貢献することができた。また、2016 年リオオリンピックのアジア予選では、前橋商業高等学校出身の柳瀬選手、志賀選手が活躍して優勝をおさめ、リオオリンピックへの出場権を獲得した。

中 体 連

前橋市中体連水泳部は、7 月に前橋市中学校総合体育大会水泳競技大会、8 月に前橋市新人大会水泳競技大会を行っています。両大会を運営するにあたり、前橋市水泳協会の方々に、競技役員として多大なる支援をいただいております。各中学校においてプールを使用することができない期間は、毎週土曜日、県立敷島公園水泳場に、前橋市内中学校の水泳部員が顧問とともに集まり、合同で練習を行っています。



第 65 回群馬県都市対抗水泳競技大会
前橋市・総合優勝 平成 27 年 8 月 23 日

高崎水泳協会

創 立 昭和23年7月

住 所 (会長)高崎市上並榎町 154-2 (事務局)高崎市矢中町 479

役 員

会 長 内田 康夫 副会長 猿谷 宝 池田 雄介
理事長 秋山 浩一(事務局)

沿 革
(高崎市の水
泳の始まり)

◎江戸時代 高崎の人が水遊びとしてではなく、水泳を始めたのは記録によると江戸時代に高崎藩の武士が、武芸の一つとして行っていたようである。高崎藩の江戸の下屋敷内の水場池で、岡山県津山藩の神伝流水練師の植原六郎佐衛門から藩の若者や子供たちが指導を受けていたようであるが、本格的なものではなく、神伝流の日本泳法が伝わるまでにはなっていない。(「高崎藩近世史略」原教箸：明治26年刊行)

◎大正時代 大正10年6月22日高崎教育会主催烏川水泳場を開催(聖石橋上流40間より120間までの間)。河原に脱衣場を設け、練習生は赤・教師は水色・一般は白色の帽子を被らせ指導管理を行った。大正11年には皆勤者59名に賞状・賞品が渡された。しかし、大正15年以降は中止となり、その後、上信電鉄が開業して、鐺川に山名水泳場が開場し、親子づれの水遊び場として盛況であった。

◎昭和初期○昭和4年 上信電気鉄道会社が山名町に鐺川をせき止め幅50m長さ200m余りのプールを開設した。翌年、近くに「水泳場前停留所」(西山名駅)を新設し、人気を集め、田中絹代・高杉早苗らの女優を招いたり盛況を極めたが昭和12年中戦争勃発により閉鎖となった。

○昭和7年 高崎の水泳が本格的に始まったのは、碓氷川八千代橋辺りのターニングボードを作り(小保方・諸岡・湯浅・相原諸氏)水泳練習を始める。やがて水泳愛好者の努力によって東三条通りの東京電力(株)高崎変電所わきの貯水池が練習用プールとして提供され、青年団の黒田・飯野の諸氏が練習に参加し、2月11日の紀元節が泳ぎ初めと決められ、厳冬の中、日向ぼっこしながら練習が続けられた。

○昭和13年 前オリンピックの日本選手監督の松澤一鶴氏の指導により城南水泳場竣工(公認プール：50m7コース、スタンド・脱衣場等付属施設付)。「明治神宮プールを除いては関東には他に見られぬ公認プール」

・第1回高崎市民初歩者水泳大会(自由形100米、平泳50米、継泳400米)始まる

○昭和18年 文部省、学校体育大会一切禁止

○昭和21年 第1回高崎市民水泳大会(城南プール)始まる

○昭和22年 日本水泳連盟全日本合宿が高崎で行われ古橋広之進・浜口喜博選手等城南プールで泳ぐ

○昭和23年 7月に高崎水泳協会(会長：笹島彦次郎・理事長：宮下茂)が設立され、伊勢崎水泳協会・県高等学校体育盟と3団体で県水泳連盟を組織し、日本水泳連盟の加盟団体として承認される

・第1回高崎市内高等学校対抗水上競技大会(城南プール)始まる[高商優勝]

○昭和25年 第1回高崎市内中学校水上競技大会(城南プール)始まる

・清水健(中央中学校)第1回全国中学水泳競技会100m自由形2位

○昭和26年 北部水泳場が昭和町に開設(25m6コースプール、脱衣場等建物付)

・第1回日本水泳連盟級検定会(城南プール)

・高崎市営城南プール(50m7コース)再公認される

・第6回高崎市民水泳大会兼第1回水上カーニバル(城南プール)

・清水健(高崎高校)全国高校水泳競技会(天理)で100m自由形3位

・第2回日本水泳連盟水泳指導者検定会(城南プール)



【左2人目：古橋広之進、右：浜口喜博、
右：小島市長、右2人目：笹島彦次郎、
右端：宮下茂】

(高崎水泳
協会の設立)

○昭和27年 国鉄海水浴列車臨時運転（毎日曜日：高崎⇄大磯）

・清水健（高崎高校）栃木国体で100m自由形6位

○昭和28年 清水健（高崎高校）高知国体で100m自由形4位

○昭和29年 6月1日城南プール開き（水天宮に初水上げ無事故祈願後高工水泳部飛込）

・高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』創刊号発行

○昭和31年 第11回高崎市民水泳大会兼第4回水上カーニバル〔河童祭〕（城南プール）男子小学生自由形25mより開始し、背泳、平泳、横泳、バタフライを終わってカーニバルに入る。パン食い競泳、抽選レース、高商生の仮装行列、模範泳法、西瓜取り、ミスター黒ん坊、等々にぎやかなうちに無事終了

・清水健（立教大3年＝中央小・中央中・高崎高校）第32回日本学生選手権水上競技大会兼オリンピック予選会（神宮プール）で100m自由形第3位・200m自由形第3位となりオリンピック出場決定

・高崎水泳協会メルボルンオリンピック水泳選手・清水健君壮行会（中央公民館）

・清水健、第16回メルボルンオリンピックに自由形選手として参加し、800mリレー補欠選手となる。

・群馬県水泳連盟創立10周年記念表彰・板垣賞&勲功賞（清水健）、感謝状（田島辰次・宮下茂・関口善平・矢島明・水村傳・曾根誠・岸一郎・根岸省三・尾高一郎・北井柳太郎・浅見伊三郎・小島弘一・田中友次郎・中沢宗弥・井上房一郎・友松善三郎・田代猪之助・井野富治・村田宏吉・湯浅長栄・鈴木義雄・栗原達雄・石井鎮世・笹島彦次郎）を受ける

・高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』第2号発行

○昭和32年 第7回群馬県都市親睦水上競技大会（前橋・岩神小）で総合初優勝

・高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』第3号発行

・高崎水泳協会旗できる

○昭和33年 第8回群馬県都市親睦水上競技大会（前橋・中央小）で総合2連覇

○昭和34年 第9回群馬県都市親睦水上競技大会（桐生・東小）で総合3連覇

・第14回高崎市民水泳大会兼第7回水上カーニバル〔河童祭〕（城南プール）市民のお祭りである水上カーニバルの呼び物、黒ん坊コンテストに初めて女子多数の参加があった

・高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』第5号発行

○昭和35年 高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』第6号発行

○昭和36年 第1回日本水泳連盟競泳巡回指導会（北部プール）

・群馬県水泳連盟創立15周年記念式典、県水泳連盟最高記録賞（中島勝子・黒沢二八子）を受ける

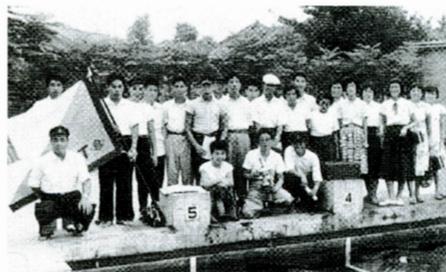
・第16回高崎市民水泳大会兼第8回水上カーニバル〔河童



【第1回市内中学水上競技大会】



【市庁舎前垂幕・清水健君（中段・中央）を送る激励会】



【都市親睦大会総合初優勝】



【都市親睦大会・2連覇】

祭] (城南プール) 四泳法競技・潜水・抽選レース・パン喰い競泳・西瓜取り・黒ん坊コンテスト・参加者35名

・高水協主催泳力強化陸上トレーニング方法伝達講習会(高商体育館50名受講)

・高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』第7号発行

○昭和38年 高崎水泳協会機関雑誌『飛魚』第8号発行

・第13回都市親睦水上競技大会(城南プール)で開催

○昭和41年 群馬県水泳連盟創立20周年記念、群馬県歴代十傑賞(清水健・桜井洋子・黒沢二八子・村上洋子・吉井昇)・感謝状(久保田宗一郎・住谷啓三郎・内藤由巳夫・大橋文夫・四十山善一・高崎第二中学校・宮下茂・石井鎮世・坪野良一・松井至郎・五十子俊雄)を受ける

○昭和44年 高崎観音山フェアリーランドに流れるプールのカッパピアがオープン

・朝日新聞主催水泳教室を城南プールで開催(5日間、市内及び県下小学生200名参加)

○昭和45年 高崎市教育委員会主催の第1回水泳教室をカッパピアで開催(5日間・小中学生200名参加)

○昭和48年 高崎市営東部プールが台新田町に開設(25m7コース・更衣室棟等)

・群馬スイミングスクールが飯塚町に開校(高崎市内初の私設スイミングスクール)

○昭和49年 第5回親子水泳教室(6日間)中級者水泳教室(10日間)を城南プールに移して開催

・県民体育大会夏季大会兼第24回都市対抗水泳競技大会(県営敷島プール)で総合優勝(4回目)

○昭和50年 城南プールに幼児用プール増設(18.4m×8m)

・平田美恵(塚沢小)アジアG A水泳競技会(ソウル)で優勝

・高崎水泳協会が群馬県社会体育優良団体として県教育長賞を受賞

・平田美恵、第1回上毛スポーツ賞を受賞

○昭和51年 城南プールに少年用プール(25m×13m)を増設

・県民体育大会夏季大会兼第26回都市対抗水泳競技大会(富岡市民プール)で総合優勝(5回目)

・平田明仁、第2回上毛スポーツ賞を受賞

○昭和53年 平田美恵、全国中学校選抜水泳大会で200m個人メドレー3年連続優勝

・平田美恵、第8回アジア競技大会(バンコク)400m個人メドレー優勝

○昭和55年 第1回婦人水泳教室(6日間)を城南プールで開催(定員40人)

○昭和60年 第1回勤労者水泳教室を城南プールで開催(参加者11名)

○昭和62年 群馬県水泳連盟40周年記念表彰・感謝状(石井鎮世・宮田貞治)、特別表彰(松澤睦)、表彰状(松井至郎・木村保三郎・小茂田猛・岡田弘・多胡豊・高橋日出夫・平野孝・五十子俊雄・猿谷宝・内田康夫・滝沢信子・須藤輝正・桜井道夫)を受ける

○平成元年 県民体育大会夏季大会兼第39回都市対抗水泳競技大会(前橋市民プール)で総合優勝(6回目)

・前橋スイミングスクール高崎校、東貝沢町に開校

○平成2年 ナガイスイミングスクール高崎校、柴崎町に開校

・ジェルススポーツクラブ高崎スイミング、上中居町に開校

○平成3年 高崎イトマンスイミングスクール、筑縄町に開校

・サンピア高崎、プールを島野町にオープン



【第13回都市親睦大会・城南プール】

- 平成5年 群馬県水泳連盟45周年記念表彰・感謝状（松井至郎）、表彰状（松澤睦・宮田貞治・岡田弘・小茂田猛・野村まさ江・平野孝・石井鎮世・猿谷宝・五十子俊雄・吉井昇・小島一見・清水豊・坂井繁也・山崎隆夫・戸部博・内田康夫）を受ける



【浜川プール開設：泳ぎ初め】

- ・県民体育大会夏季大会兼第43回都市対抗水泳競技大会（太田サマーランドプール）で総合優勝（7回目）・ドウスポーツプラザ高崎スイミングスクール昭和町に開校

- 平成6年 浜川運動公園にプール（50m9コース・25m7コース・流水プール・滑り台プール）を開設、落成記念式典及び泳ぎ初め（式典：石井・五十子・坂井・平野・内田・山崎・戸丸・小茂田、模範泳：五十子・坂井・内田・山崎・戸丸・群馬スイミングスクール選手）



【浜川温水プール：泳ぎ初め模範泳】

- ・第49回高崎市民水泳大会を新設なった浜川プールに移して開催

- 平成7年 浜川運動公園に温水プール（25m6コース・幼児用プール）・トレーニングルームを開設、落成記念式典及び泳ぎ初め（式典：石井・平野・猿谷・五十子・吉井・山崎・内田、模範泳：五十子・山崎・石原・戸丸・小西・平野・吉井・内田・清水豊・野宮）

- ・第19回関東中学校水泳大会（浜川プール）開催

- ・第44回関東甲信越国立大学体育大会水泳競技大会（浜川プール）開催

- 平成8年 東日本医科大学体育大会水泳競技大会（浜川プール）開催

- 平成9年 群馬県水泳連盟創立50周年記念、感謝状（石井鎮世・群馬スイミングスクール・県央スイミングスクール・高崎イトマンスイミングスクール・ナガイスイミングスクール・シエルスポーツクラブ高崎・高崎浜川プール）・功労章（松澤睦・五十子俊雄・猿谷宝・平野孝・須藤輝正・吉井昇・内田康夫・狩野茂巳・戸部博・山崎隆夫・小澤哲・野宮愛子・小西洋子・清水武夫・戸丸善光・池田雄介・清水豊・坂井繁也・坪野良一・小島一見）を受ける

- 平成11年 夏季一般大人水泳教室（5日間）を浜川温水プールで開催

- 平成12年 春休み児童水泳教室を浜川温水プールで開催

- ・都市対抗水泳競技大会50回記念功労者表彰（坪野良一）

- ・高崎水泳協会創立50周年記念式典・祝賀会（サンパレス）を挙行

- ・高崎水泳協会：飛魚「創立50周年のあゆみ」記念誌を発行

- 平成13年 県民体育大会夏季大会兼第51回都市対抗水泳競技大会（高崎浜川プール）で総合優勝（8回目）

- 平成15年 県民体育大会兼第53回都市対抗水泳競技大会（県営敷島プール）で総合優勝（9回目）

- ・秋季土曜児童水泳教室（5日



【高崎水泳協会創立50周年記念式典】

大会（ローマ）で内田翔200m自由形4位
[日本新記録]・4×200mリレー4位

・県民体育大会夏季大会兼第59回都市対抗水泳競技大会（前橋敷島プール）で総合優勝（12回目）

○平成23年 東日本大震災発生（3/11）で計画停電・ガソリン不足の為、4/18まで浜川温水プール使用停止

・第26回ユニバーシアード（中国深圳）夏季大会で福田智代（コナミ高崎）200m個人メドレー4位・100mバタフライ3位・4×100mメドレーリレー3位、大塚一輝（コナミ高崎）200m平泳ぎ3位・100m平泳ぎ13位・50m平泳ぎ27位、内田翔（群馬ヤクルト）4×200mリレー2位・400m自由形3位・200m自由形3位

・第66回高崎市民水泳大会（浜川プール：小学生153名・中学生75名・高校生7名・一般98名の計333名参加）、ゲスト内田翔（銀1銅2）・貴田裕美・大塚一輝（銅1）・福田智代（銅2）の4名がユニバーシアード大会メダルをかけて開会式で激励挨拶し、大塚一輝が50m平泳ぎ模範泳を披露

○平成24年 貴田裕美（ALSOK群馬）オープンウォーター五輪世界最終予選会（ポルトガル：セチュバル）で13位でオリンピック出場決定＝日本人初代表

・第30回ロンドンオリンピック女子10kmオープンウォーター（ロンドン：ハイドパーク）で貴田裕美2時間00分20秒0で先頭から1分20秒9遅れの13位/24名で完泳

・県民体育大会夏季大会兼第62回都市対抗水泳競技大会（前橋敷島プール）で総合優勝（13回目）

・第67回高崎市民水泳大会（浜川プール：小学生168名・中学生117名・高校生16名・一般103名の計401名参加）、ゲスト内田翔・貴田裕美2名が開会式で激励挨拶と50m自由形模範泳を披露

○平成25年 貴田裕美、第15回世界水泳選手権大会（バルセロナ）オープンウォータースイミング女子25km8位入賞 [5時間16分25秒7] 日本人初入賞

・県民体育大会夏季大会兼第63回都市対抗水泳競技大会（前橋敷島プール）で総合優勝（14回目）

・第68回高崎市民水泳大会（浜川プール：男子201名・女子130名の計331名参加）ゲストで内田翔が開会式で激励挨拶と50m自由形模範泳を披露、高崎経済大学水泳部38名・農大二高水泳部6名・高商水泳部2名が競技役員で協力を実施

○平成26年度・高崎市体育協会スポーツ講演会（ホワイトイン高崎：水泳・宮下純一氏「出会いに感謝～思い続けたオリンピック～ [5歳から水泳を始めてから北京オリンピックで400mメドレーリレーで銅メダル獲得するまでの20年間の話]」参加者279名

○平成27年度・第70回高崎市民水泳大会（浜川プール、参加者：男子217名・女子125名の計342名）高崎経済大学水泳部31名役員協力で気温22.0度・水温23～24度と一日中雨で肌寒い中実施し、大会記録12種目出る。70回記念として小学生～高校生種目1位者に橙色オープンシャツを贈呈。昼休み敷島シンクロ7名によるシンクロの演技と男女別日焼け比べ大会を実施



【第66回高崎市民水泳大会開会式】



【第30回ロンドンオリンピック高崎市壮行会】

歴代会長

第1代：笹島彦次郎（S23年～S25年）、第2代：関口善平（S26年～S27年）、第3代：井上房一郎（S28年）、第4代：友松善三郎（S29年～S33年）、第5代：四十山善一（S34年～S43年）、第6代：末村啓治（S44年～S52年）、第7代：浦野泰行（S53年～S60年）、第8代：石井鎮世（S61年～H9年）、第9代：岡田昭（H10年～H20年）、第10代：内田康夫（H21年～現在）

（文・写真：責＝内田康夫）

桐生水泳協会

創 立 昭和 23 年 8 月

住 所 桐生市錦町 1-1-13 事務局長（鈴木 光）方

役 員

会 長 須藤 敏子

副会長 今井 賢一 小林 光男 野間 義弘 飯野 統世 朝倉 洋二

理事長 久保田 朗

<あいさつ>

桐生水泳協会会長 須藤 敏子

群馬県水泳連盟創立 70 周年おめでとうございます。私ごとではありますが、昭和 58 年あかぎ国体の折、エキジビションで、桜木婦人会の方々と一緒にシンクロナイズドスイミングで参加させていただきました。一生に一度の思い出作りをさせていただき、心より感謝申し上げます。以来、競技会、行事等お手伝いさせていただくようになりました。

これからも、群馬県水泳連盟の発展のために微力ではありますが、桐生水泳協会会長として、また、県水泳連盟の一員としてご支援させていただければと思います。

この 10 年間において、本協会では競技以外において、数多くの受賞者を輩出することができました。

沿 革 (H18~H27)

H18. 8 野口有利恵氏、須藤敏子氏、増田光弘氏、県民体育大会水泳特別賞。

H19. 8 飯山繁氏、高橋秀夫氏、県民体育大会水泳特別賞。

H20.11 蛭間利雄氏、叙勲（旭日小綬章）。

H21. 4 五十嵐源一氏、叙勲（瑞宝双光章）。

H21.12 日本水泳連盟より、優秀団体表彰受賞。

H25. 9 須藤文治氏、日本水泳連盟有功章。

H26. 2 須藤文治氏、群馬県スポーツ協会スポーツ功労者賞。

H27. 2 久保田朗氏、群馬県スポーツ協会スポーツ功労者賞。

H27. 9 久保田朗氏、日本水泳連盟有功章。

平成 21 年 10 月 23 日に、桐生市文化会館において桐生水泳協会創立 60 周年祝賀会を開催しました。

また、平成 25 年に表彰台を、平成 26 年には競泳スターター台を蛭間木工所様、加藤鉄鋼様から寄贈され、競技会運営の充実を図ることができました。

歴代会長

理事長

・初代 金子 徳治（S23. 8~S31. 3）

・2代 海藤 順一（S31. 3~S33. 9）

・3代 福田良四郎（S40. 4~S42. 3）

・4代 風間 恵一（S42. 4~S44.10）

・5代 蛭間 利雄（S45. 4~H3. 3）

・6代 幾井 俊雄（H3. 4~H15. 3）

・風間 恵一

・風間 恵一

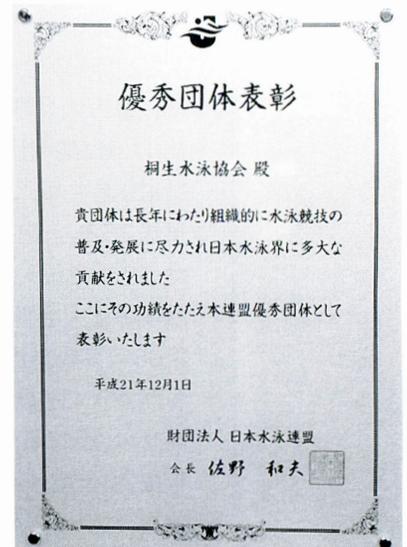
・風間 恵一

・蛭間 利雄

・五十嵐源一

・今井 賢一

※（S33.10~S40.3までは会長不在）



H21 優秀団体表彰状

- ・ 7代 野口有利恵 (H15. 6~H25. 3) ・五十嵐源一 (H15) ・今井 賢一
- ・ 8代 須藤 敏子 (H25. 4~) ・飯野 統世 (H25-26) ・久保田 朗

年間行事

- 6月 桐生市・みどり市中体連春季水泳競技会
- 7月 桐生市・みどり市中体連総体水泳競技大会
- 7月 桐生市体育協会水泳教室
- 7月 桐生市・みどり市小学校水泳記録会
- 8月 県民大会強化練習会
- 8月 桐生市民体育大会水泳競技大会兼中体連新人水泳競技大会
- 10月 桐生市・みどり市地域スイマーズフェスティバル兼桐生市中体連秋季水泳記録会
- 3月 チャレンジスイミング in 桐生

活動報告
・ 競技部
(H18~H27)

- H18. 4/23 2006年度日本マスターズ水泳短水路大会 (千葉・習志野) において、五十嵐源一 (アザミイトマン) が70才区分男子50mバタフライのマスターズ日本新記録を樹立。
- H20. 3/27-30 第30回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会 (東京・辰巳) において、井田悠斗 (スウィンあざみ) が男子10才以下50mバタフライで優勝、50m自由形で第2位に入賞。
- H21. 8/26-30 第32回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 (東京・辰巳) において、スウィンあざみ (渡邊秀弥、西村臣史、星野祐一郎、田沼直也) が男子10才以下200mリレーで第2位に入賞。
- H22. 3/27-30 第32回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会 (東京・辰巳) において、加藤紫世 (スウィンあざみ) が女子10才以下50mバタフライで優勝、井田悠斗 (スウィンあざみ) が男子11~12才50mバタフライで第2位に、50m自由形で第3位に入賞。
- H23. 8/6-7 第62回日本実業団水泳競技大会 (岐阜市) において、小池和也 (桐生工業高校教員) が30歳以上男子100m平泳ぎで第3位に入賞。
- H24. 8/19 県民体育大会において、男子30歳代 (桜井誠士、茅野勝、天笠秀俊、小池和也) が総合優勝。
- H25. 3/28-31 第35回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会 (新潟・長岡) において、鈴木千尋 (スウィンあざみ) が女子10才以下50m平泳ぎで第3位に入賞。
- H25. 8/3-4 第64回日本実業団水泳競技大会 (兵庫・尼崎) において、小池和也 (桐生工業高校教員) が30歳以上男子100m平泳ぎで優勝。
- H26. 3/16 T o B i Oマスターズ2014 (静岡・浜松) において、小池和也が35才区分男子200m平泳ぎのマスターズ世界新記録を樹立。



H24 県民大会 男子 30 歳代総合優勝

- H26. 8/2-3 第65回日本実業団水泳競技大会（和歌山市）において、小池和也（桐生工業高校教員）30歳以上男子100m平泳ぎで第2位に入賞。
- H26. 8/26-30 第37回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会（東京・辰巳）において、鈴木千尋（スウィンあざみ）が女子11～12才50m平泳ぎで第2位に入賞。
- H27. 3/27-30 第37回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会（東京・辰巳）において、鈴木千尋（スウィンあざみ）が女子11～12才50m平泳ぎで第3位に入賞。

普及部
(H18～H27)

<チャレンジスイミング in 桐生>

- ・趣旨…老若男女が等しく楽しめる水泳をより多くの方々に理解して頂き、市民の健康維持と増進を計りかつ親睦を深める。
- ・内容…参加者で各チームを編成し、1時間で合計何m泳げるかにチャレンジする。

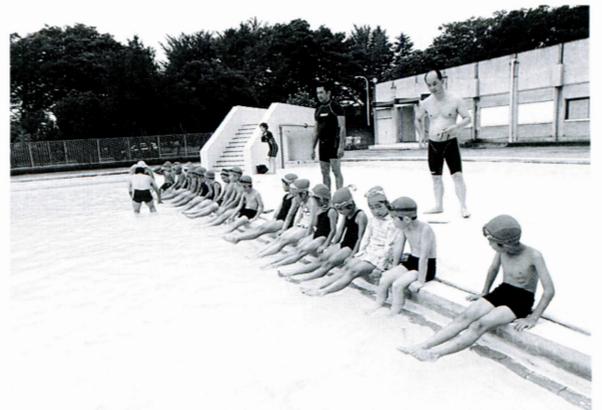
第1回はH16.6/3に「マラソンスイミング in 桐生」として開催。上毛三山の合計の高さ(4,380 m)を何時間で泳げるかに挑戦しました。参加者90名で、1時間2分22秒でした。第2回より現在の実施内容となり、同時に泳法講習会も実施しています。

第2回	H18. 2/ 5	4コース合計距離 16,200m/ 参加人数57名。
第3回	H19. 2/25	5コース合計距離 22,500m/ 参加人数53名。
第4回	H20. 2/24	5コース合計距離 17,725m/ 参加人数50名。
第5回	H21. 2/22	5コース合計距離 22,575m/ 参加人数77名。
第6回	H22. 2/28	5コース合計距離 23,050m/ 参加人数79名。
第7回	H23. 2/27	4コース合計距離 18,200m/ 参加人数53名。
第8回	H24. 2/19	5コース合計距離 22,400m/ 参加人数60名。
第9回	H25. 3/ 3	5コース合計距離 21,850m/ 参加人数71名。
第10回	H26. 3/ 9	5コース合計距離 21,475m/ 参加人数64名。
第11回	H27. 3/11	4コース合計距離 18,400m/ 参加人数56名。

<小学生初心者水泳教室>

水泳初心者の小学生を対象に、楽しく遊びながら水に慣れ、プールの楽しさを覚えることを目的として、桐生市民プールにて夏休み中に5日間実施しています。

平成17年より「小学生夏休み水泳教室」として1年生から6年生を対象に30名募集し、実施してきました。平成21年度からは「小学生初心者水泳教室」として1年生から3年生を対象に20名を募集して実施しています。



小学生初心者水泳教室の様子

<会報>

桐生市、群馬県、関東、全国など、各大会での成績優秀者の記録、桐生水泳協会行事の結果やお知らせ、桐生水泳協会関係者の表彰の記事などを、写真入りで記載しています。

平成 17 年度に第 1 号を発行し、平成 27 年度にて第 10 号となりました。なお、平成 21 年度は桐生水泳協会創立 60 周年記念誌を発行しました。



H21 60 周年記念誌表紙写真

課題と展望

以上のように、毎年各専門部の活動や、行事を関係諸団体と連携しながら計画的に実施していますが、会員数が増えない中、会員の方々の高齢化も進み、この 10 年間は、会員を増やすことを目標に取り組んできました。また、競技会の充実にも取り組み、審判資格の習得や、中体連の先生方と連携し、パソコンなどの O A 機器を積極的に取り入れて競技運営を実施しています。このように新しい風を協会内に入れるべく、会員の若返りを図り、これからも各行事を実施して行きながら、微力ではありますが、群馬県水泳連盟の諸行事にも参加協力させていただきたいと思えます。

協会組織図

(総務・常任部会)	
構成委員	所轄事項
(総務役員)	1. 協会全般の運営連絡等に関する事務事項 2. 財務に関する事項 3. 登録に関する事項 4. 広報、表彰に関する事項 5. その他
会長・理事長・会計・会長指名 (名誉会長・顧問・参与・県役員・その他)	
(常任役員)	
各部部长 小体研代表理事 中体連代表理事 高体連代表理事 スイミング代表理事	
(競技部会)	
構成委員	所轄事項
理事より (若干名) 委嘱委員 (若干名)	1. 競技の企画と運営に関する事項 2. 強化練習会・講習会・研修会等の企画と運営に関する事項 3. 記録編集に関する事項 4. その他
(普及部会)	
構成委員	所轄事項
理事より (若干名) 委嘱委員 (若干名)	1. 水泳普及の企画と運営に関する事項 2. 指導者養成及び初心者指導に関する事項 3. その他

伊勢崎市水泳協会

創 立 昭和 21 年

住 所 伊勢崎市上泉町 290-1 (事務局)

役 員

会 長 木津 智史

副会長 高井 孝雄 伊藤富士男 石坂 幸男 山田 廣好 永山 昌昭

理事長 山口 友幸

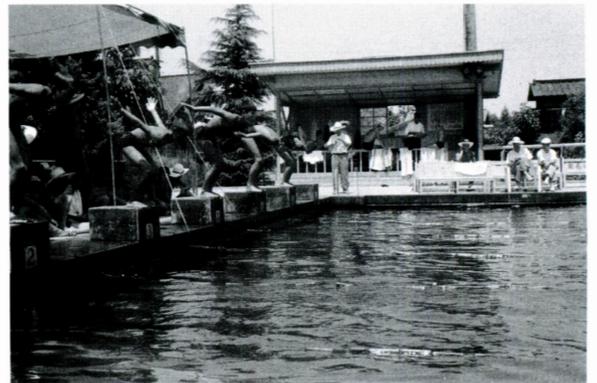
沿 革

昭和 21 年に伊勢崎市水泳協会が設立されました。初代会長に板垣源一郎氏が就任しました。昭和 23 年には、高崎市水泳協会、高体連、伊勢崎市水泳協会が日本水泳連盟に加盟し、その後群馬県水泳連盟の歴史とともに伊勢崎市水泳協会も活動を行ってきました。

昭和 21 年～ 45 年は旧市民プール（北小学校の裏）で主に練習をしてきました。このプールは、当時の会長板垣源一郎氏の寄贈で作られたプールであり、幼児用から競泳のできる一般プールまで、4 つのプールがあり、市民の憩いの場でもありました。

思えば、4 月の寒い時期から特別にプールを使用させていただき、中学生、高校生、一般の水泳部員が合同練習をして記録の向上に努力をしました。夏のシーズンには時間外に練習をさせていただいたことが、市内の中学生、高校生の仲間意識の向上や部員の記録の向上に役立ちました。中学生の大半は地元の高校に進学し、群馬県の代表選手として活躍しました。

その後、昭和 46 年に現在の市民プールがオープンしました。しかし、開場時間の制限があり、旧プールのような練習時間を確保することは難しくなりました。優秀な中学生も他市の高校に進学するようになり、伊勢崎市水泳協会も低迷していました。その後、スイ



ミングスクールが各地に誕生しました。伊勢崎市にも伊勢崎 S S（現スポーツアカデミー伊勢崎）、伊勢崎イトマン S S（現スウィン伊勢崎 S S）、ナガイ S S が誕生し、スイミングスクールで練習した児童、生徒が全国の大会でも活躍するようになりました。

歴代会長

第 1 代 板垣源一郎氏（昭和 21 年～）

第 2 代 白川森三郎氏

第 3 代 津田 貞氏

第 4 代 白川喜一郎氏

第 5 代 岡村 本治氏

第 6 代 本多 久氏（～平成 8 年）

第 7 代 木津 智史氏（平成 9 年～現在）

行事・活動 報 告 等

伊勢崎市水泳協会は、毎年 8 月の第 1 日曜日に「伊勢崎市民水泳大会」開催しています。伊勢崎市や玉村町の小学生、中学生、高校生、大学生、社会人が参加しています。現在は参加するスイミングが少ないため小学生の参加が少なくなっています。中学生は在学する中学校からの参加が原則であるため多数参加しています。中学校は、リレーチームを複数登録できるため、

最後の種目である中学生のリレーが盛り上がっています。ここ数年、伊勢崎市にある大学の水泳部が参加し、20才以上の競技も盛り上がり始めました。

小学生・中学生の男女1名ずつに優秀選手賞を授与しています。また、中学校のリレーでは、男子の優勝チームに伊勢崎市長杯を、女子の優勝チームに伊勢崎市水泳協会長杯を授与しているため、大きな応援の中、熱い戦いが繰り広げられています。

現在、伊勢崎市水泳協会で開催する行事は、「伊勢崎市民水泳大会」だけです。マスターズ大会等の開催は検討中です。また、小学生の水泳記録会や中学生の春季大会、夏季大会、新人戦への役員としてのお手伝いを行っています。

また、毎年開催される都市対抗水泳大会については、例年選手選考に四苦八苦しています。水泳協会員である40才以上の選手は、伊勢崎市にあるスイミングスクールで通年練習をしていますが、30才代、20才代の選手や成年女子の選手選考は悩みの種となっています。しかし、平成27年度は、何とか全種目エントリーでき、十数年ぶりに総合3位になりました。これからは、若者や女性も水泳協会に加入してもらえるように、努力していきたいと考えています。

最近10年間の都市対抗水泳大会の成績

平成18年	5位	平成23年	5位
平成19年	5位	平成24年	4位
平成20年	6位	平成25年	4位
平成21年	4位	平成26年	6位
平成22年	4位	平成27年	3位



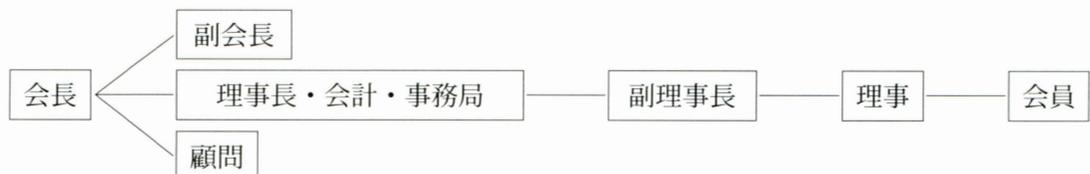
課題と展望

伊勢崎、佐波の合併に伴い、あずまウォーターランド、ふれあいスポーツプラザという温水プールが伊勢崎市に加わりました。水泳は、健康スポーツとして脚光を浴びています。競技スポーツとしての水泳だけでなく、健康を目的とした水泳を愛好する人々がだいぶ増えてきました。

伊勢崎市水泳協会では、以前、スイミングスクールのプールを借り、伊勢崎市マスターズ大会を3回ほど開催しました。しかし、参加者が少ないことと会場のことが課題となり、継続できませんでした。今後は伊勢崎市水泳協会主催のマスターズ大会等の開催を協会員で検討して行きたいと思っています。

協会組織図

伊勢崎市水泳協会 平成27年度 協会員28名



太田市水泳協会

創 立 昭和 21 年 11 月に太田水泳クラブとして創立。昭和 41 年「太田市水泳協会」と改称。

住 所 〒 373-0861 群馬県太田市南矢島町 701-1 (事務局)

役 員

会 長 篠崎 健晴
副会長 吉野 亘 長谷川弘禪
理事長 正田 雪彦
理 事 鈴木 英明 荒木 康光 三田村大輔 佐藤 雄大

歴代会長：

初代 岡田喜四郎 (～昭和 41 年) 2代 根岸 英雄 (～平成 10 年)
3代 小川 清治 (～平成 14 年) 4代 桂田 勝 (～平成 24 年)
5代 篠崎 健晴 (平成 24 年～現在まで)

沿 革

戦後の昭和 21 年 11 月に太田水泳クラブとして創立・発足。昭和 41 年に太田市水泳協会と改称し、現在に至る。この間、高度経済成長期、バブル期、失われた 20 年、昨今のアベノミクスによるデフレからの脱却と言う激動の経済変動期を通して、平成 28 年には、創立 70 周年という長い歴史を迎える太田市水泳協会であることに、感慨深いものがある。

行事・活動

“水泳を通し、太田市民を幸せにする”という理念の基、諸活動を推進してきている。

主な大会への協力・参加・開催：

- ①太田市 3 実業団対抗水泳競技大会の開催 (富士重工業、三菱電機、理研の水泳部による 3 実業団対抗水泳競技大会を開催。現在は未実施)
- ②太田市中学校総合体育大会水泳競技大会への協力
- ③太田市中学校新人大会水泳競技大会への協力
- ④太田市民総合体育大会夏季大会水泳競技への協力 (昭和 49 年の第 1 回大会以降現在も継続)
- ⑤群馬県都市対抗水泳競技大会への参加 (昭和 26 年の第 1 回「5 市対抗水泳競技大会」にも太田市として参加し、現在も継続参加)



※写真は第 2 回太田市年齢別水泳記録会

- ⑥太田市選手権水泳競技大会開催 (昭和 56 年～平成 17 年まで 25 回実施)
- ⑦太田市 50 m 選手権水泳競技大会開催 (平成 17 年～ 21 年まで 5 回実施)
- ⑧太田市年齢別水泳記録会開催 (平成 26 年の第 1 回、27 年の第 2 回を開催し継続)

ジュニア選手の育成・強化：

- ①スポーツアカデミー水泳部：土曜日 (2 回/月)、10:30～12:30 スバルスイミングで、小学 4 年生～中学 3 年生を対象としたスポーツアカデミーを開催。平成 24 年度の前期で閉校になるまで 12 年間実施。水泳が好きになったジュニアも多いはずである。
- ②とうもうサマーランド 50 m プールでの強化練習：7 月初～8 月末のプールオープン期間、朝

9時～12時に4つのコースを占有利用し、小体研、中体連、スイミングスクールに所属する選手の強化練習を実施している。飛び込みの練習、大会が行なわれる50mプールへの適応などに奏功。

③志賀リバーサイドホテル（1泊2日）短期合宿：平成21年5月30～31日合宿実施。寝食を共にしての集団生活のマナー向上や親睦も図れた。

④菅平高原（1泊2日）短期合宿：直近では、平成23年5月28～29日、プチホテル・ゾントックで72人が参加して実施。他県選手の参加がよい刺激となり、大会時のプレッシャーに勝つ訓練となったようだ。若い選手の育成は、家族、学校関係者、スイミングスクールのコーチなど多くの人の協力があって成立する。特に、良き指導者の存在は、欠かせない。

課題と展望

ハード面（水泳施設：プール）とソフト面（組織のあり方）から今後の課題を考えてみたい。まず、ハード面での太田市のプールに関して、過去を振り返っておく。

①八幡プール：昭和28年、公認25mプール（短水路）として新設。

②公民館プール：昭和30年、駐留米軍の娯楽施設であったものを払い下げて市民へ開放。



③とうもうサマーランド：昭和55年にレジャープールの他に競技用公認50m（9コース）、25m（7コース）がオープン。レジャープールは、平成13年に取り壊したが、競技用プールは、多くの水泳大会で使用され続けている。昭和57年と平成5年には、群馬県都市対抗水泳競技大会にも使用されたほどである。

※写真は、とうもうサマーランド公認50mプール。近年、水漏れなど老朽化が進み、新50mプールの早期完成が緊急課題と言える。

ソフト面（組織のあり方）に関しては、ほとんどの人が仕事を持っている中で、ボランティア活動として水泳協会に関わっているが、

- ・組織のまとまりと活性化
- ・良き水泳指導員の育成と確保

が重要課題である。どうしてもお任せ精神になりやすいので、各年代ごとのキーパーソンを確保し、世代を超えて「いっしょに」やって行こう精神を浸透させたい。良き水泳指導員については、市内スイミングスクールとの連携強化とともに、公認水泳コーチ等の資格取得の後押しをしたい。

（執筆：長谷川 弘禪）

沼田利根水泳協会

創 立 昭和31年

住 所 〒378-0051 群馬県沼田市上原町1679-1

役 員	会 長	石田 宇平				
	副 会 長	設楽 初美	鳥羽 準一	星野 力	栗原日出夫	
	理 事 長	山崎 一夫				
	副理事長	丸山 暁美	由井 重男			
	理 事	田中 信宏	星野善次郎	横坂 留美	南雲 正明	小澤 貴信
		山口 裕幸	石倉比呂氏	阿部みづ穂	吉原 賢司	
	監 事	望田フサ江	星野 楊			
	顧 問	山田 稔	桑原 幸夫	亀岡 久昌	山田龍之介	

歴代会長

初 代	小野喜与三 (昭和31～昭和55)	第2代	林 辰衛 (昭和55～昭和59)
第3代	小方佐平治 (昭和60～平成10)	第4代	斉藤 秀男 (平成10～平成18)
第5代	山田 稔 (平成18～平成26)	第6代	石田 宇平 (平成27～)

沿 革

沼田利根地区にも県立沼田中学校（現沼田高等学校）新校舎の建築（昭和3年）にともない25mプールが建設され、昭和31年には小野喜与三氏を会長、星野芳樹氏を理事長として水泳協会が発足した。水泳協会設立と同時期、昭和村立昭和東小学校に防火用水を兼ねた25mプールが建設され、これを機に利根沼田町村水泳大会や小学生水泳教室等本格的な水泳の普及及び強化活動がスタートした。その後会長が林辰衛氏、小方佐平治氏、斉藤秀男氏、山田稔氏、石田宇平氏と代わり、理事長は、浜田寿雄氏、小方佐平治氏、山崎一夫氏と引き継がれ平成28年には創立60年を迎える。現在群馬県水泳連盟役員として理事長田中信宏氏、監事桑原幸夫氏、顧問に山田稔氏が就き県水泳界に貢献している。

活 動 報 告

本協会として特に全国に誇れる強化行事として昭和33年より四万温泉（山口館）の15m、3コースの小さな温泉プールを利用し、その後四万館での冬季強化合宿（12月実施）が上げられる。当時温水プールでの練習など全く考えられない時代、お米持参で小・中・高校の選手が年齢の枠を超えての合同練習会が実施された。昭和50年代には希望者があまりにも多くなり、小学校の部と中学の部に分け実地するようになった。しかしながら30年以上続いた四万温泉合宿も学校単位の活動からスイミングスクール主体の活動に移行する中、平成2年をもって終了した。

また、四万温泉合宿と平行して夏の強化活動としては小・中学校のプールを拠点に小・中・高一環の合同練習会や、大型バスを借り切り近くの河川で強化練習会を実施するなど今日のスイミン



昭和39年 四万温泉合宿（四万館）

ダスクールを思わせる強化活動を沼田利根水泳協会として実施している。

結果、水泳条件の一番悪い群馬県北部に位置する利根沼田の中学・高校が県内で総合優勝する時代が長く続き、多くの県代表選手を排出している。

大きな行事として県民体育大会兼都市対抗水泳大会への参加が有る、昭和26年に都市親善水泳大会として始まり、沼田市は昭和34年第9回大会から参加している。各市持ち回りで主管する大会で、昭和36年（第11回大会）46年（21回）、58年（33回）平成6年（44回）17年（55回）平成28年（61回）大会を主管した。

成績は、昭和36年、女子優勝、壮年2位、成年3位で、総合3位。それ以降は、平成19年に50歳以上の部で優勝となり、20歳代2位と健闘したが、総合6位にとどまり、今後も各年代全種目出場を目指して旧5市に次ぐ順位は確保するよう取り組んでいきたい。



昭和34年 東京国体
沼田女子高校水泳部出場



平成19年 都市対抗水泳大会 50歳代総合優勝・20歳代準優勝

展 望

水泳界は、昭和40年代から冬でも室内プールで泳ぐようになり、50年代にはスイミングクラブで通年泳ぐ時代となった。沼田でも昭和60年にコマスイミングスクール（平成5年ジェルスイミングスクール沼田に改称）が発足し、幼児から成人まで通年水泳に取り組めるようになり、選手育成や大会の選手選考など完全依存している状況である。かつて多くの優秀選手が育った中学校水泳部の存続も沼田中学校と月夜野中学校となり、沼田高校のプールは老朽化で使用できず、沼田女子高校もプールが無く両校とも強化についてはスイミングクラブ頼りであり、多くの全国大会出場選手を輩出した利根商水泳部も指導者の退職やプール事情で往時の面影は薄れている。

しかしながら、近年往年の選手の復活（マスターズ）で火がつき強化活動及び普及活動にも力が入り昭和の活気が、まだまだではあるが戻りつつある。近年では小学生水泳教室など参加申し込みが増え受講者の選考に苦慮している。水泳環境がスイミングクラブの時代となっても、地域の水泳を統括する団体としての責務をこれからも果たして行きたい。

館林水泳協会

創 立 昭和34年4月

住 所 〒374-0014 館林市赤生田本町1489-1 秋谷 清治

役 員

会 長 相川 敏雄
副 会 長 樺 沢 聡 後藤 高茂 小宅 誠
理 事 長 森 慎太郎
事 務 局 長 秋 谷 清 治

沿 革

- 昭和34年4月、翌年に群馬県都市親善水泳競技大会を館林市が主管することとなり、その事が契機となって、館林水泳協会を設立。当時、市営三の丸プール（現在は廃止）で水泳救助訓練を行っていた館林市消防署員を中心に、市内の水泳愛好者を交え25人の会員による活動が開始された。

この年から市民の水泳競技への関心を高めるため、「館林市民水泳まつり」を開催し、小中学生を中心に一般の参加者も含め約100名の参加者で賑わった。また、「親子水泳教室」を立ち上げ、夏休み中に親子で水に親しみつつ市民の泳力向上に寄与した。

- 昭和54年、市内初のスイミングスクールが開校され、近隣の水泳人口は拡大した。館林水泳協会と館林市と邑楽郡の中学校体育連盟水泳委員会、スイミングスクールとの連携で館林市内、邑楽郡内の中学生の泳力は向上し、その当時の生徒達が現在の水泳協会の幹部となって後進の指導に当たっている。

- 昭和58年、「館林市民水泳まつり」を発展的に解消し、群馬県都市対抗水泳競技大会の予選を兼ねた館林市教育委員会主催の「第1回館林市民水泳大会」が開催され、館林水泳協会が大会運営に携わった。

- 昭和61年、長水路プールを併設した城沼市民プールが完成。館林市民水泳大会は「たてばやし水泳大会」と改称され、館林水泳協会が主管となり、大会運営を支えた。以来現在まで大会運営の中心的な役割を果たしている。この年、館林市主管の群馬県都市対抗水泳競技大会が完成した市民プールで開催された。この大会出場者を水泳協会の会員として積極的に迎え入れるなどして、会員は次第に増えていった。

現在日本のトップスイマーとして活躍する内田美希選手もこの大会出身者であり、2012年ロンドンオリンピック出場した際には市内の水泳界は大いに盛り上がった。

また、城沼市民プールの完成とともに、それまで三の丸プールで行っていた「親子水泳教室」を館林市教育委員会主催の「婦人水泳教室」として再出発し、協会員が指導者となった。「婦人水泳教室」はその後「女性教室」「市民水泳教室」と改称されて平成23年まで続いたが、役割を終えたことにより現在は行っていない。

- 平成7年、城沼市民プールにて第45回群馬県都市対抗水泳競技大会が開催され、大会運営に尽力した。選手強化に励み、5位と健闘した。

- 平成9年、館林市総合福祉センター内温水プールにて、近隣の水泳愛好者約100名が集う「館林マスターズ水泳大会」の第1回大会を主催した。これは、平成5年、館林市総合福祉センター内に短水路温水プールが併設されたことを契機にマスターズ大会開催の機運が高まったことによる。平成18年には第10回記念大会を開催した。この時の参加者は役員を含め270名の盛大な大会となった。



- ・平成18年、県営敷島公園水泳場にて館林市主管の第56回群馬県都市対抗水泳競技大会が開催され、4位と健闘した。
- ・同じく平成18年、館林市社会福祉協議会主催の「館林市福祉まつり」に際し、水泳の初心者指導を実施したことを契機に、年間を通して指導を受けたいという参加者の声を受けて、館林市総合福祉センターにて毎月第二土曜日に「ワンポイントレッスン」を開始した。
- ・現在、53名の会員を擁し、館林地区の水泳の健全な普及発展を図り、水泳を通して地区住民の体育向上に努め、健全なスポーツ精神の育成を目的として活動している。

歴代会長

第1代 落合 啓志 (S 34～) 第2代 館野 政國 (H 6～)
 第3代 安楽岡一雄 (H 17～) 第4代 相川 敏雄 (H 20～)

行事・活動 報告等

定期総会 (3月)

市内の料理屋にて、前年度協会への功労者に対し表彰した後、会長を議長として、事業報告・事業予定・決算・予算・役員などの協議と決議をした。その後、会員同士の交流を深める懇親会を開催した。

理事会 (年間4回)

総会原案の協議、館林マスターズ水泳大会および市民大会の開催について、県民大会への参加について、今年度のまとめと反省など

事務局会議 (年間4回)

館林マスターズ水泳大会および市民大会の運営に関する事務処理など

館林マスターズ水泳大会の開催 (6月第3日曜日)

館林市総合福祉センター温水プールを会場にして、近隣のスイミングスクール、高校、中学校、個人の水泳愛好者に要項を送り毎年開催している。第1回の約100名参加の大会から始まり、平成27年の第19回大会では役員を含め250名参加の大会となっている。途中、平成23年は東日本大震災のため中止となったが、平成28年に第20回記念大会を迎える。初心者から熟練者まで楽しめる大会を目指している。なお、この大会の収益金の一部は社会福祉協議会を通して寄付をし、社会福祉貢献活動の一助となっている。

たてばやし水泳大会 (8月第1日曜日)

館林市教育委員会および館林市体育協会の主催。館林水泳協会は大会の主管として準備や運営に深く関わり、児童生徒、一般市民の泳力向上に寄与している。

群馬県都市対抗水泳競技大会への参加 (8月)

選手強化のため、館林市教育委員会の協力で市民プールや総合福祉センタープールにおいて練習会を行っている。館林市が主管するときには準備や役員として全面的に協力する。

大会参加者にユニフォームを提供するほか、大会当日懇親会を行っている。

ワンポイントレッスン (毎月第2土曜日)

館林市総合福祉センター温水プールにて、毎回3人の協会員が交代でボランティアで指導に当たっている。10時から12時まで一人30分の個人レッスンを行っている。毎回12名の定員を越える予約があり、たいへん好評を得ている。

忘年会 (12月第2土曜日)

1年を反省しつつ会員同士の親睦を深めている。

課題と展望

ポスターなど会員募集を随時しているが、会員の平均年齢が高くなりつつあり、若い人たちの加入が待たれる。

渋川水泳協会

創 立 昭和 49 年

住 所 〒 377-0027 渋川市金井 717 - 5 増村 千明（事務局）

役 員

会 長 田野崎謙一

副会長 福本 佳功

理 事 長 増村 千明

副会長 赤尾 拓子

副理事長 小林由美子

副会長 入沢 孝

沿 革

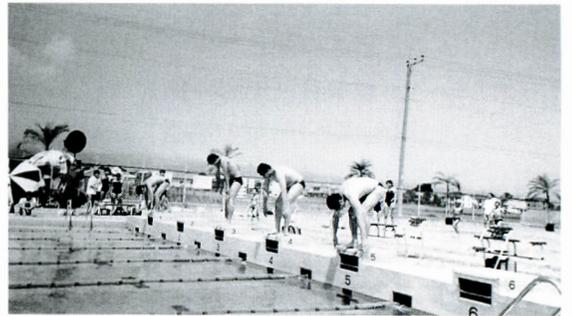
昭和 49 年群馬県都市対抗水泳競技大会を渋川市主幹で開催するのを契機に渋川市水泳部として設立。初代会長小野沢庄次郎が市内企業からの応援や渋川市体育協会の支援を得て 11 名の部員により活動が始まり、群馬県水泳連盟との関連から渋川市水泳協会が誕生した。

昭和 55 年 7 月に渋川市半田に市民プールが完成したのを機に、渋川市の掲げた一市民スポーツの合言葉のもと小学生から成人まで約 160 名の参加による夏季水泳教室がスタートした。

昭和 60 年と平成 4 年にスイミングスクールが市内に開校され近隣の水泳人口は大きく増大し、渋川市市民水泳大会の参加者も 300 人を超える規模になっていった。

昭和 60 年に指導部会を立ち上げ、スイミングスクールの協力を得て小学生を中心に 20 名ほど募集し、毎週日曜日の水泳教室が始まった。

12 年間に渡り水泳教室を開催し延べ 250 名余りの卒業生を送り出した。



市民水泳大会



草津合宿



水泳教室

平成 8 年草津水泳連盟が渋川市水泳協会に加入し、渋川水泳連盟と改名し広域圏での水泳普及と交流が始まった。草津町営プールを利用した合同強化合宿を行いこの年に渋川市主管で開催された群馬県都市対抗水泳競技大会では 11 市中第 2 位の成績を取ることが出来た。

現在、小・中学生水泳教室の卒業生が成人し、教職など其々の道で後輩の指導育成に努力しており渋川市民大会、群馬県都市対抗水泳大会などの強力な支援者となっている。



平成8年群馬県都市対抗水泳競技大会第2位

歴代会長

第1代 小野沢庄次郎 (S 49～H 1) 第2代 高橋 徳光 (H 1～H 16)
 第3代 司東 丕国 (H 16～H 26) 第4代 田野崎謙一 (H 26～)

行事・活動 報告等

水泳教室

現在、3ヶ所の温水プールにて小学生から成人にいたるまでの各クラス別教室を開催しており、生涯スポーツの実践の手助けを行っている。また、平成9年に渋川市に建設された「県立ゆうあいピック記念温水プール」を拠点に障害者水泳教室、高齢者水泳教室、シンクロ教室開催に協力しており幅広く水泳人口拡大のお手伝いを行っている。

水泳大会

毎年7月群馬県都市対抗水泳大会の選手選考を兼ね渋川市民水泳大会を開催しており、大会前の水泳教室には毎年200人余りの小・中学生が参加している。

「県立ゆうあいピック記念温水プール」で毎年開催される、初心者や高齢者、障害者が楽しく気軽に競技に参加できる「ゆうあいフェスティバル水泳記録会」の運営協力を行っており今年で17回を迎えた。



第17回ゆうあいフェスティバル水泳記録会

今後の展望

当協会として、近隣の温水プールの利用者は年々増えているなか、今後とも水泳の普及発展と高齢者、障害者の健康と福祉交流など、明るく・楽しい生涯スポーツの振興と地域環境づくりにボランティアとして寄与していく。また、協会指導部の指導力強化のために研鑽を行うと同時に、市内2校のスイミングスクールとの連携により、小・中学生を中心とした選手の競技力向上を目指してゆく。

藤岡市水泳協会

創 立 昭和 38 年 4 月 1 日

住 所 藤岡市中島 554-1

役 員

会 長 多胡 豊

副会長 廣瀬 登 中村 友和 小貫 論

理事長 萩原 信行（事務局）

沿 革

藤岡市水泳協会の設立は、市民プールの完成（昭和 38 年）と共にある。当初は心得のある有志によるボランティア活動によって、小学生の水泳教室に誕を発している。

そして、ほぼ同時に市教育委員会及び体育協会の役員が中心となり市民水泳競技大会が開催された。その当時、すでに県段階で郡市大会が 14 回も行われていたが当市としては県大会へ選手を送り込むほどには至らなかった。

それから 3 年後の昭和 40 年・第 15 回大会は郡市大会から、群馬県都市対抗競技大会に名称が改められた。その第 1 回目の記念すべき年に、藤岡市が当番市に当たり盛大に開催をされ、藤岡市市民プールの名を全県下にアピールした年でもあった。

その後、小学生水泳教室の応募者も 1,000 人を超す勢いとなり、市民水泳競技大会も都市対抗水泳競技会選手選考会としての位置づけになり、都市対抗水泳競技大会に向けての機運が高まり、本格的に水泳協会を立ち上げて活動しだした昭和 50 年・第 25 回群馬県都市対抗水泳競技大会が藤岡市市民プールを会場に開催される運びとなってからは、高崎商業高校水泳部 O B ・高崎高校 O B ・水泳連盟指導員有資格者等を水泳コーチ陣に据え、その指導のもと小学生水泳教室（ママさん水泳教室）も最盛期を迎えたが現在は指導者の職務の都合により水泳教室は中止を余儀なくされている。

昭和 51 年より平成 17 年までは藤岡市水泳協会にとっては充実期を迎えた。

しかし、この間に市内にスイミングスクール 2 校がオープンしたり、藤岡市市民プールも新たに建設をされたが協会会員の減少などで活動が縮小して今日に至っている。

歴代会長

第 1 代 野中 楽山（昭和 38 年～昭和 50 年）

第 2 代 隅田川 守（昭和 51 年～昭和 58 年）

第 3 代 大理 一穂（昭和 59 年～平成 26 年）

行事・活動 報 告 等

藤岡市水泳協会は群馬県都市対抗水泳競技大会と藤岡市市民水泳大会の 2 大会が主な行事・活動になる。

群馬県都市対抗水泳競技大会は昭和 50 年から平成 17 年までは出場選手が豊富にいて、6 位～7 位を保っていたがこの数年は成人のスイマー減少により、出場選手が大幅に減少しており 9 位～最下位と残念な成績になっている。

平成 17 年 7 月に新市民プール「みずとびあ藤岡」が建設された。

みずとびあ藤岡は短水路プールとして建設され、市内の老若男女が泳いで健康増進を図って

いる。

市民水泳大会は、そのプールを会場に毎年8月最後の日曜日に開催をしている。

近年は短水路で25・50Mの競技を中心に大会を開催しているので、幼児や年配者も気軽に出場できるようになったので毎年出場者が増加している。

当協会は生まれ変わった水協として会員同士が目的を實踐できるようこれから羽ばたいていきたいと思う。

1 会員増を図る

藤岡市内の中学・高校時に水泳競技に携わった人たちは、地元就職する者が少なく、他市や県外に就職してしまう傾向にあることから協会の平均年齢は高い。今後、20代から40代の若い人たちを加入させることが近々の課題であり、現会員が一人2人の新会員を募ることとしたい。

2 協会主催の水泳教室を実施する

協会の水泳指導者資格保有者は2人であることすら、上記目的を推進したうえで会員に水泳指導員資格取得にチャレンジしていただき、事故防止と起こってしまった時の適切な対応への取り組みを学んでもらい、数年後に水泳教室を実施したい。

指導内容の充実と併せて公認水泳指導員資格制度を広く浸透していきたい。

3 将来藤岡市マスターズ水泳大会を開催する

高齢化が進んだ現在、生活習慣病がクローズアップされるようになったことで体を動かすことの重要性があらためて注目されるようになり、藤岡市民や近隣の方々の水泳人口が徐々に増えている現状にある。

しかし、現状では当協会には財源・人的な問題など課題が多く残るが課題を少しずつ解決し、中高年の健康の維持と促進につながるよう市民・近隣住民のためのマスターズ水泳大会を数年後目途に実施したい。その際は中学生の参加も募り、地域住民と協働しながら大会を運営しスポーツ社会へ向け取り組んでいきたい。



昭和63年8月21日

第38回 群馬県都市対抗水泳競技大会 総合6位(安中市)



平成2年8月19日

第40回 群馬県都市対抗水泳競技大会 (西毛総合運動公園プール)

富岡市水泳協会

創 立 昭和 45 年 5 月
住 所 富岡市七日市 742 番地 1

役 員	会 長	宮本 浅雄					
	副会長	深澤 昂一	岩井 進	岡田 稔一			
	理事長	荻野 純一					
	理 事	大久保実成	金子 一郎	内山 和芳	篠原 昌子	平田 明仁	
		山口 陽代	伊藤 敏明	矢島 和江	落合 仁志	伊藤 伸治	

沿 革

昭和 35 年富岡高校で創立 60 周年事業の一環として 25 m プールが完成した。甘楽富岡に初のプールであったが、昭和 58 国体のハンドボール会場となり、会場の拡張と老朽化のため撤去された。

昭和 40 年群馬県 11 市の最後に富岡市民プールが完成した。翌 41 年、県民体育大会夏季大会兼群馬県都市対抗水泳競技大会が富岡市の市民プールで開催され、富岡市は大会に参加した。

この大会に出場した選手を纏め、自ら選手として出場した篠原春男を中心として水泳団体設立の機運が高まり、41 年 9 月スイミングクラブ緑水会が結成された。

設立の趣旨には「スイミングクラブ緑水会は市民のためのクラブであって、お互いに研究錬磨し合い、正しい水泳の泳法を身に着け、内には修練を通して、高い精神性と豊かな心情をかれ、水泳を人間形成の一素材とすることを目的とするもの。」この地域の水泳競技の地域性、後進性を考え、



昭和 42 年 第 17 回都市対抗 (前橋市民プール)

前途に在るべき姿を思い浮かべながら夏の夜に発会式の準備作業が行われた。

役員は委員長 篠原春男、副委員長 児島充之 (富岡高校に赴任中)、委員 深澤昂一、宮本浅雄 他 5 名があり、顧問の内には富岡市水泳連盟会長の名があった。(連盟は都市対抗の選手集めの為に関係者が対応したもので会長以下 3 名の陣立てであった。)

翌年から組織の充実を図る為、役員は指導員の資格を得て本格的に活動を開始した。

昭和 45 年 5 月、スイミングクラブ緑水会を富岡市水泳協会に名称変更する。規約は篠原委員長が昭和 44 年に起案した。内容は地域の水泳の健全な普及と発展及び選手の育成を目的としたもので、45 年 3 月地域の関係者を網羅した説明会を開き承認され、初代会長に篠原春男、理事長、宮本浅雄の体制で発足した。又、この規約は 25 条で構成されたもので、現行の群馬県水泳連盟規約の雛型でもあった。

【群馬県水泳連盟 (以下、県水連と略す) の会議に出席するようになってから、その組織の硬直化が抱える問題が現れて来た。】

【昭和 45 年 4 月、前橋市民プールの 2 階の会議室で県水連の総会が開かれ、組織改革が行われた。

富岡市水泳協会長篠原春男の提案に、多数の理事の賛同があったのは時代の流れであろう。人事は浅香会長、蛭間理事長の新体制で動き出した。

規約は3専門委員会を設置して連盟内部の平明さと連携を図り、特に競泳委員会で新しい強化の方針を以て選手強化の実績を上げ、それが広く県民に浸透する事の重要性を直視し、実現可能な体制作りが全てに繋がると考えた結果であった。以降、その推進には多くの関係役員の献身的な努力、協力が継続された事は言うまでもない。その活動は競泳強化の新時代を切り開き、次世代につながる成果をなした。また、この事は県内の他のスポーツ団体の先がけとなった。

自らの体験の内から現実を見据え、水泳競技の発展を真に願った故人、篠原春男の業績は末永く評価されるべきである。】

協会の活動は、富岡市とその周辺町村を統括し、地域の小中学校の先生を対象とした講習会、初心者のための講習会開催を重ねた。また、小学生の標準記録の設定、記録会、講習会は活発に行い当初の目的は達成した。中学校プールの建設陳情も、当時ねばり強く行ったが、市内の中学校の建設は、新しい時代の幕開けとしながらも、その機運を受け切れずに、機会を逸した。

歴代会長

初代 篠原 春男（昭和45年～平成17年）

第2代 宮本 浅雄（平成18年～現在）

行事・活動 報告等

昭和47年、この年の市民大会小学生出場者には須藤聡、佐々木敬、矢島信弥、学年下の平田明仁、低学年では平田美恵の名前がある。後年選手で活躍し、今も関連の線で貢献して居る名もある。

昭和49年夏、記憶に残る市民プールでの富岡中学男子4名の練習風景は、篠原会長自らの練習メニューで各々の種目で泳ぎ込む。ダッシュの前に、自動練習と名付けた2コースに分かれて50mのリレーを行う。現在のサークルトレーニングと同じ方法である。当時の中学生にとってハードな時間が過ぎた。その練習は県中学総体で、同得点2位の輝かしい成績を挙げた。

昭和50年度第25回県民大会男子10歳代100M自由形で中学生の須藤聡（1分3秒5）と、同200M平泳ぎで佐々木敬（2分56秒0）が優勝した。この頃から競泳はスイミングクラブに移行して新しい時代を向かえた。

平成3年、富岡市民プールで一人の中学生が目にとまった。村上和基である。体形は水泳選手というよりも体操選手のそれであった。今回確認すると、飛び込みは小学4年から始めたという。切っ掛けは競泳の大会に行き飛び込みを見て、自分もやりたいと思い始めたという。高校生になって本格的に練習を重ね、一貫した体制と良い指導者に恵まれ、結果本来の素質を開花させ、大いに活躍し貢献した。このことは、水泳競技の広がりや、地域社会に印象深く示した功績がある。

課題と展望

以降スイミングクラブの隆盛と連携して地域の競泳の発展に尽くし、健全な社会体育の推進の為に、温水プールを地元で建設されるよう行政に長い間働きかけを続けている。

また、泳ぎに親しむ人、泳ぎを学ぶ未成年者の多くが、将来この地域に定着出来る様な経済基盤の整備などの促進に向けて、行政への提言も一つの課題として積極的に進めている。

安中市水泳協会

創 立 昭和 38 年 4 月

住 所 〒 379-0224 安中市松井田町人見 510-2 理事長 佐藤 守 宅

役 員 会 長 今川 守義 副会長 州上 通直 長谷川貴一
理事長 佐藤 守

沿 革 昭和 34 年の第 9 回群馬県都市親睦水上大会が当番市の桐生市で開催されるにあたり、安中市水泳協会の前身としての水泳愛好者を募り初参加する。

その後昭和 38 年 4 月に安中市水泳協会が正式に設立された。

昭和 39 年 10 月に日本初の東京オリンピックが開催されるにあたり、安中市でもスポーツに対する機運がより一層高まり、同年に安中市営の屋外プール（50 m 7 コース）が完成オープンした。

これを機に当プールで安中市が当番市となり、群馬県都市親睦水泳競技大会と改名された競技会を盛大に開催し、各市の水泳協会などとの連携と協力のもとに成功裏にその責任を果たすことができた。

安中市水泳協会もようやく軌道にのるなか、水泳競技者の競技への参加意識と関心が高まり、競泳競技力の更なる向上を図るべく、昭和 40 年 8 月に第 1 回の安中市民水泳大会を開催することとなった。

当初は、小中学生の泳力記録会を兼ねた水泳大会で 300 人以上の参加者が有り、特に学童の泳力向上のために多いに貢献できた。

平成 7 年 7 月には、安中市スポーツセンターの中に待望の市営温水プール（25 m 5 コース）が完成し、年間を通して水泳に親しみ楽しむことのできる良い環境が整った。

老若男女を問わず健康管理のために、又水泳競技会での自己記録向上のための練習場所として、この温水プールを有効に活用している今日この頃である。

安中市水泳協会では、平成 27 年 3 月に日本水泳連盟より優良団体表彰を受賞しました。

推薦いただいた群馬県水泳連盟に感謝するとともに、受賞に恥じないよう今後も水泳技術の向上と更なる普及のために努力してまいります。

○安中市水泳協会の組織は

会長（1 名） 副会長（2 名） 理事長（1 名 事務局） 常任理事（2 名）

理事（4 名） 会 計（1 名） 監 事（2 名）

の役員から成り、会員総数 38 名（平成 27 年度）である。

協会の運営は、会員の年会費（2000 円／1 名）と市の補助金や水泳教室などの事業費収入で賄い、事業計画については、理事会の議決を経て総会にて決定する。



平成 4 年 8 月 第 42 回都市対抗水泳大会



昭和 52 年 8 月
小学生水泳教室
市営 50m プールにて



平成 27 年 8 月 9 日
安中市民水泳大会
西毛運動公園
25m プールにて

事業内容

昭和 39 年の安中市営プールの完成に伴い、夏季に小学生 1 年生～ 4 年生を対象とした初心者水泳教室を年 2 回ずつ実施してきた。(安中市教育委員会主催) その後、安中市内の各小学校に 25 m のプールが完成し、小学生の水泳環境が整った。

昭和 59 年からは市内小学校のプールを毎年 2 校ずつ交互に活用し、それぞれ持ち回りで 1 会場 50 ～ 60 名定員で水泳教室を実施した。

特に小学 4 年生以下の低学年児童の無泳者をなくし、又一方泳力の向上を目指すべく現在も続けて実施中である。

安中市民を対象とした一般初心者水泳教室や中上級者水泳教室の開催なども大変好評である。

これらの水泳教室には、安中市水泳協会の会員が勤務の合間をみて全面的に協力し、指導に当たっている。

もちろん市民水泳大会の実施や県大会、日本マスターズ大会などの競技会にも積極的に参加し、記録の維持向上も目指している。

○平成 27 年度の主な事業内容を下記に示す。

月日	事業名	参加者	月日	事業名	参加者
5/24	日本マスターズ大会	13 名	8/9	安中市民水泳大会	50 名
6/8~12	一般男女水泳教室	150 名	8/23	県都市対抗水泳大会	40 名
7/27~31	学童初心者水泳教室	250 名	11/6	群馬ねんりんピック	15 名
8/3~7	学童初心者水泳教室	250 名	11/15	県年齢別短水路大会	20 名



平成 24 年 6 月 一般男女水泳教室
安中市スポーツセンター温水プールにて



平成 11 年 6 月 18 日 親子水泳教室
USA 元オリンピック選手 (マーク・ウェルカー)

将来展望

平成 27 年の安中市民水泳大会も第 49 回を迎えることとなったが、将来に向けてひとりでも多くの参加者を募り、更に充実した大会の継続に努める所存である。

少子高齢化の進む中、高齢者の生涯スポーツとしての健康増進と水泳の楽しさを感じてもらうための活動が活発化しているが、安中市水泳協会としても前項で述べた諸事業を確実に遂行すると共に、年齢を問わず積極的に参加していくつもりである。

競技会への参加や水泳教室の実施により青少年の健全育成はもとより、高齢者の参加推進によつての健康増進をも図っていきたい。

競技会で自己記録を伸ばすことも重要だが、皆で水泳を楽しむことを目標に水泳人口の底辺を広げるよう努力を惜しまぬつもりである。

(歴代会長)

- 初代：堀口 喜慶 昭和 38 年 4 月～昭和 46 年 3 月
- 二代：木村 徹 昭和 46 年 4 月～平成 14 年 3 月
- 三代：今川 守義 平成 14 年 4 月～現在に至る



平成 26 年度
日本水泳連盟優良団体表彰